配をしているが、本当に大丈夫なのか。

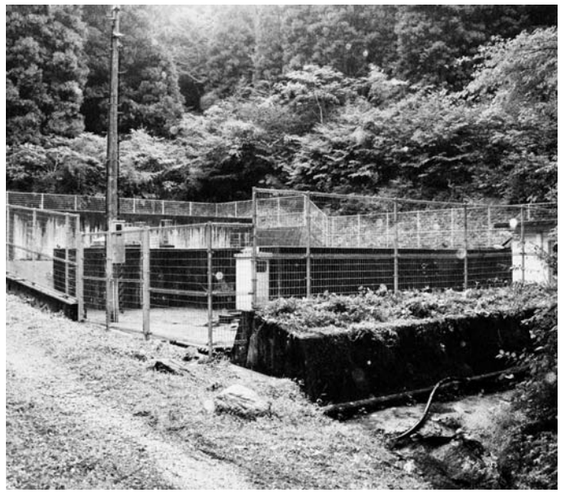
岩﨑町長

現簡易水道は一部使用するが、ＪＡ土佐れいほくが独自の水道施設を新たに整備をすることになっており影響はない。

都築正光議員

大豊町簡易水道条例による給水管の口径は、13ミリメートルから75ミリメートルとなっており、給水延長30メートルで水圧が3キロと仮定すると、1時間当たりの給水量は13ミリメートルで約1・6トン、50ミリメートルで約53・6トンである。船戸での配水管は75ミリメートルであり、仮に給水管の口径75ミリメートルの申込があった場合は条例がある限り認めなければならない。現行条例は矛盾するので検討せよ。

本町の簡易水道は10施設ある。この簡易水道の使用量は、1施設平均3000トンであるが、大田口地区の船戸集落だけみると約3700トンから約3800トン、中でも8月から11月にかけて多いときには約7000トンが使用されている。現在の大田口地区の給水人口は540人であるが、既存の柚子搾汁施設を稼働し、新柚子搾汁施設でも使用すれば、断水が生じるのではないか、既存の簡易水道に新しくタンクを設置するなどの抜本的対策は検討したか。


大田口地区簡易水道奥大田浄水場

岩﨑町長

柚子搾汁施設整備に係る水道の件については、ＪＡ土佐れいほくとともに地元住民の方にも説明をし、理解を頂いたところである。今後ともＪＡ土佐れいほくと使用量について協議をしていく。更に地区住民の需要に応じた水道の布設等を検討して給水の適正を保持する。

柚子搾汁施設安全祈願祭

都築正光議員

ＪＡ土佐れいほくがトベリキ谷川から独自の水道施設を新たに整備すると聞くが、農業用水として利用している農家や、現在耕作をしてないすべての水利関係者には合意が得られているのか。

岩﨑町長

ＪＡ土佐れいほくからは合意が得られていると聞いている。

一般質問

搾汁用柚子玉の価格報償制度の制定を

問 柚子の新植が多く町・農協・農家による価格報償制度を検討せよ

答 基金制度のみならずほかの制度を含め検討する

都築正光議員

昨年度の柚子玉1キロ単価が160円から170円で販売できているが、近年1万本を超える柚子が新植されている。現状の単価で取引されれば農家の所得も安定し廃園もないと思慮するものである。しかし、農家もだんだんと高齢化し、雇用して収穫する場合は100円を下回ったら赤字となる。柚子搾汁施設整備とセットで町・農協・農家で協議をし、搾汁用柚子玉の価格補償制度の検討は考えないか。

岩﨑町長

既存の搾汁施設による加工率は約20数パーセントであり、このたび整備する新搾汁施設により加工率は約50パーセントとなる。この新搾汁施設整備は生産量も増加し、対応が困難になったことに加えて、加工率を上げ農家所得の向上につなげるということが大きな目的である。今後農家所得の向上のため基金制度などについて検討する。

一般質問

拠点観光施設（道の駅 ゆとりすとパーク おおとよ・山荘梶ケ森）の今後の管理運営は

問 知名度の高い日本一大杉を核とした取組を

答 観光拠点と山村での営みを組み合わせた交流に努める

都築正光議員

拠点観光施設は大新東㈱を指定管理者とし、平成23年3月をもって5年間の期限を迎えようとしているが、今後どうするのか。また、現在の社会情勢において魅力のある観光施設でないと入り込み客は一度訪れれば二度・三度と訪れないのが実情である。全国的にも有名な日本一大杉周辺の環境整備や駐車場整備を行い入り込み客数の増加に努める考えはないか。

日本一大杉

ゆとりすとパークおおとよ

山荘梶ケ森

岩﨑町長

平成23年4月から公募による指定管理者制度での管理運営を考えている。既に大新東㈱から提案を頂いているが幅広く公募をしている。今後は拠点観光施設と特別天然記念物日本一大杉などの観光拠点に加え、棚田での耕作など長く培われた山村での営みを組み合わせた交流に努め、入り込み客数の増加に取り組む。

一般質問

役場本庁舎の建て替えは急ぐのではないか

問 役場本庁舎建築基金設置の考えはないのか

答 公共施設の整備を目的とした基金条例設置を検討している

都築正光議員

東南海地震と南海地震についてマスコミが騒いでいる昨今、9月1日は防災の日で全国各地で防災訓練が実施された。本町では、十数年前に本庁舎の耐震診断を実施し、強度不足で補強工事よりも建て替えた方が望ましいと聞いている。平成15年度には財政が困窮して他市町村には類を見ない抜本的な改革を実施し、

役場本庁舎